



鯉学ニュース

NO.59 2013年6月

長野県伊那市・JA上伊那と就農支援協定を締結

鯉淵学園は、5月9日、伊那市およびJA上伊那との間で新規就農支援協定を締結しました。この3者協定は、JA上伊那管内への就農や同管内の農業生産法人への雇用就農を希望する本学の学生に対して、伊那市とJA上伊那が必要な情報を提供し、その円滑な実現をはかることを目的とするもので、こうした協定は全国初のケースとして報道機関や関係者の注目を集めました。

協定の調印式で伊那市の白鳥孝市長は、「若い人が農業を始めるには技術や資金、住居などが必要となる。JA上伊那とともに積極的な支援策を実施していきたい。鯉淵学園から多くの学生を送ってもらい、伊那市から一緒に日本農業の再出発をはかりたい」と述べ、3者協定の今後の展開に強い期待感を表しました。また、青年就農の支援事業を強めるJA上伊那（組合員約2万6800人）の御子柴茂樹組合長は「今回の3者協定の締結を通じて、農業の良さ、大切さを全国へ積極的に発信していきたい」と述べ、地域農業の発展にむけたJAの役割発揮に意欲を示しました。



3者協定の調印式に臨んだ鯉淵学園の近藤学園長(左)、伊那市の白鳥市長(中央)、JA上伊那の御子柴組合長(右)と、伊那市の「イーナちゃん」

就農支援強化をめざすネットワークの拡大計画

鯉淵学園の近藤博彦学園長は今回の協定締結を次のように高く評価しています。「青年就農者への支援では全国でもトップクラスの先進地域である長野県の伊那市とJA上伊那との間で、鯉淵学園が3者協定を結ぶことができたことは極めて意義深い。本学では、普通高校出身の非農家の学生が増えており、こうした学生にとって、他県への就農あるいは雇用就農の可能性が大きく広がることになった。今回の協定を伊那モデルとして成功させるため、学生に対する実践的な農業教育をさらに強化していきたい。



3者協定の締結を1面トップで報じる日本農業新聞

また、長谷川量平教務部長は「鯉淵学園 OB の牛山喜文JA上伊那専務理事が協定実現に尽力された。鯉淵の強みを改めて痛感している。大分県庁とはすでに同様の協定を結んでおり、今後は全国の主なJAと就農支援協定を締結してネットワークを拡大し、学生の多様化する就農計画の実現を支援していきたい」と述べ、3者協定に基づく最初の取り組みとして、伊那市内の花卉農家での研修を希望する学生1名を6月から1か月間派遣する計画を明らかにしました。

食品栄養科の1年生、栄養士をめざしチャレンジ開始!

210 時間を超える調理実習、150 種類以上のメニューに挑戦

4月3日に入学した食品栄養科の1年生。オリエンテーション後に一息つくまもなく授業が始まり、2年間での栄養士資格取得をめざす挑戦を開始しました。基礎栄養学や公衆衛生学、食品加工学、フードシステムなどの広範な専門分野の学習に加え、学生たちは2年間で210時間を超える調理実習を通じて高レベルの調理技術を習得することが求められます。

1回の授業が3時間以上つづく調理実習。「包丁の使い方」「だしの取り方」「ご飯の炊き方」の基礎から、和食・洋食・中華・行事食・家庭料理など、150種類を超すメニューの調理技術を、2年間で着実に身につける。学生たちにとって重要な課題となります。

さらに、学生たちは、乳幼児から高齢者にいたるライフステージ別の食事を調理する栄養学の実習や、食事療法の実践を学ぶ臨床栄養学の実習、給食管理学実習、パソコンを使った栄養管理の演習など、卒業後の多様な職場での活躍を想定した実践的な学習が求められます。

あらゆる職場で活躍できる栄養士を養成

「栄養士の卵たち」が2年後、それぞれ希望の方向へ巣立っていくことを願う調理実習担当の浅津竜子准教授(管理栄養士)は、本学の食品栄養科の特徴を次のように強調します。

「他の専門学校や大学にはない鯉淵学園の特徴は、食品栄養科の学生が学園の農場で野菜などを実際に生産し、収穫した食材を使って調理実習を行う、まさに『種まきから食卓まで』の学習です。農場実習は卒業後の職場に活かせる貴重な体験。食材の鮮度や旬を理解することは栄養士にとって欠かせない技能です。それに私たち教員は、あらゆる職場で活躍できる栄養士を育てるため、校外実習を含め、実践的な教育にもっとも力を入れてきました。卒業生たちの就職先が大幅に広がってきたのは、こうした取り組みの成果だと確信しています。東日本大震災で停電が続いた際、老人福祉施設に就職した本学の卒業生が『お鍋でご飯』をたき、入所者へおにぎりを提供して喜ばれたという話を聞きました。本学では水加減や



「調理実習の楽しみは、家族に『おいしかった』と喜んでもらうこと(自宅通学の学生)。「学校の給食施設で働きたい」など、多くの学生は卒業後の方向をすでに決めている。

火加減を学ぶために炊飯器でなく、お鍋での炊飯を指導しています。これも、現場でしっかり活躍できる栄養士を育てたいという私たちの願いが叶った1つの現れだと思っています。学生が講師になって指導する『実演法』やテーブルマナーの実習など、実践教育をさらに強化していきます」。



5月15日の調理実習の課題は2種類のクッキーづくりからパッキングまで



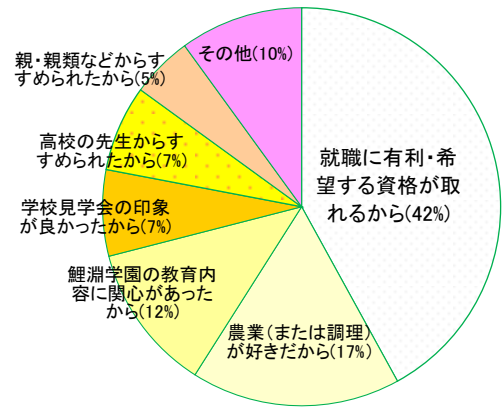
「就職に有利」と「資格取得」が入学決定の最大の理由

平成25年4月、鯉淵学園の食農環境科と食品栄養科に入学した新入生73名に対し、本学への進学決定の理由などについてアンケート調査をおこないました。その結果の一部をご報告します。

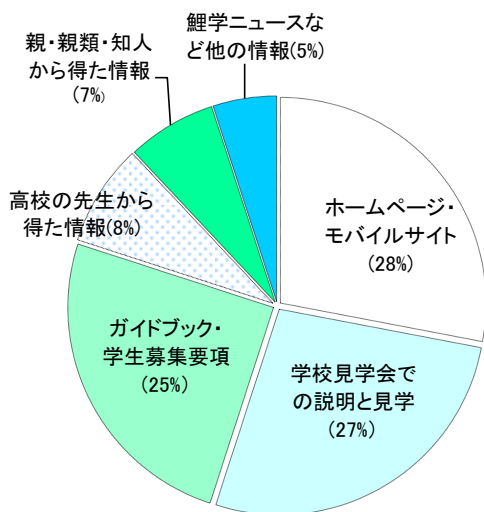
「鯉淵学園への進学を決定したもっとも大きな理由(1つだけ選択)」について、新入生の42%が「就職に有利・希望する資格を取得できるから」と回答しました。ほぼ半数近くの新入生にとって、本学選択の最大の理由が就職と資格取得。こうした回答は、就職支援の徹底した個別指導や卒業生の活躍ぶりに関して本学が積極的に発信してきた情報を、出願者の多くが評価した結果でもありと考えられます。

進学決定の他の主な理由は、「農業(または)調理が好きだから」(17%)、「鯉淵学園の教育内容に関心があったから」(12%)。また今年度は、「高校の先生からすすめられたから」(7%)、「親・親類などからすすめられたから」(5%)の回答も目立っています(グラフ1を参照)。

(グラフ1) 新入生が鯉淵学園への進学を決定したもっとも大きな理由



(グラフ2) 新入生にとって鯉淵学園進学決定に役立った情報



重視されるホームページや学校見学会での情報

一方、「鯉淵学園への進路を決定する際に、どのような情報が役立ちましたか(複数回答)」の問いに対し、もっとも多かった回答は本学の「ホームページ・モバイルサイト」(28%)で、これに「学校見学会・オープンキャンパスでの説明と見学内容」(27%)、「(本学の)ガイドブック・学生募集要項」(25%)、「高校の先生から得た情報」(8%)などがつづきました(グラフ2参照)。

この結果からも明らかのように、ホームページやガイドブック等の文字情報に加え、学校見学会やオープンキャンパスで本学を訪問し、教育内容や施設などを実際に自ら確認して出願するという、高校生や社会人の傾向が年々強まっています。

なお、「鯉淵学園の学校見学会やオープンキャンパスに参加して、特に印象に残ったものは」の問いに対する回答では、第1位が「広いキャンパスなど豊かな自然」(26%)。これに、「農産物の収穫や調理などの体験」(23%)、「学内の農場・施設などの見学」(19%)、「(本学教員との)個別面談」(11%)などがつづきました。

◆ Campus 短信

鯉淵学園で学ぶアジア諸国等からの農業研修生：

鯉淵学園で農業技術などを学ぶ海外の研修生が平成 25 年度は大幅に増えています。タイのタマサート大学からの交換留学生 2 名(4~5 月の 2 カ月間)をはじめ、4 月から 5 月には、国際農業者交流協会の要請に基づき、フィリピン・インドネシア・マレーシアからの農業青年 78 名を 2 回にわけて受け入れました。これらの「アジア農業青年人材育成研修」は 8 月にも実施され、タイやフィリピンなどから来日する 50 名以上の農業青年リーダーや政府職員などが、本学での講義や農場実習に参加する予定となっています。

また、国際協力機構(JICA)の日系人研修で 5 月にブラジルから来日した朝日ケリー由美さん(サンパウロ市内の病院に勤務する栄養士)は、本学食品栄養科の教員の指導のもとで、「生活習慣病に対する栄養指導」の研修(3 ヶ月)をつづけています。こうした国際研修の事務局を担当する井上洋一准教授は、「近年、鯉淵学園での研修に対する海外からの評価が高まってきた。海外研修生との交流を通じて、在学生たちが国際感覚をみがいてくれることを期待している」と述べています。



本学での研修開校式に臨むフィリピンとマレーシアの農業青年

東関東スポーツ大会へ「鯉淵 T シャツ」で参加した学生たち：

鯉淵学園と茨城県・栃木県・千葉県農業大学校は、学生たちの健康増進と相互交流を目的にして毎年、「農業大学校東関東スポーツ大会」を開催しています。

今年の主催校は鯉淵学園。5 月 24 日、茨城県ひたちなか市総合運動公園で開催された同スポーツ大会には、4 校の学生と教員約 600 名が参加し、野球やバレーボール、テニス、サッカー、卓球、バドミントンなどで、4 校の選手が優勝を争いました。

鯉淵学園の学生と教員は、食農環境科の谷川明日香さん(畜産加工専攻、神奈川県出身)がデザインした、ブルーの T シャツを着て大会に参加。競技の結果は、バレーボールの男女混成チーム(写真右)がみごと 2 年連続で優勝。さらに、バスケットボールの男子チーム(写真左上)も優勝、卓球(写真左下)でも団体優勝という快挙を

なしとげて、昨年を上回る好成績をあげることができました。

恒例のスポーツ大会には、4 月に入学したばかりの 1 年生も参加して大活躍。授業と実習の忙しい毎日に追われる学生にとって、思いっきり気分転換をはかり、仲間意識を強める絶好の機会となりました。



茨城県所管／農業団体助成／厚生労働大臣指定
鯉淵学園農業栄養専門学校

〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町 5965

☎ 0120-831-464 FAX029-259-6965

ウェブサイト：<http://www.koibuchi.ac.jp>

E-mail: kyoumu@mail.koibuchi.ac.jp

(お問い合わせ等はウェブサイトや携帯・スマートフォン対応のモバイルサイトからも受け付けています。QR コードを活用ください。)

